

景況実感調査(2020年2月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 2月は前月比、前年比ともに売上・加工量はや横這いであるが、収益は減少している。ギリ安市況、スクラップ安が収益を圧迫している。今後も新型コロナウイルスの影響で拍車がかからないことを願っている。
- ② ここ数年間の月次販売実績の中で最悪、最低となった。この2月をボトムとして、今後は少しでも上向きになってほしいとの思いを込めて、3か月後の景況予測をやや好転としたが、2月並みの実績が続くと会社の存続自体が危ぶまれる。
- ③ 稼働日数は18日と、対前月1日減となり売上、数量とも5%以上の減。昨年秋以降の米中貿易戦争、消費増税、台風被害、暖冬による季節消費減、1月からのコロナウイルス禍とマイナス要因のたたみかけが止まらない。これではオリンピック開催も心もとなく、マインドは冷えきっている。生産活動が休止されているセクターも多く、期末を控え与信に対する警戒も必要となってきた。社員はもちろん、取引先関係者に感染者が出ないことを祈る。
- ④ コロナウイルスの影響で更に悪化の心配をしている。中国から部材が入らなくて国内で組めない。今後、日本国内からの仕入れにシフトチェンジが出てくるかもしれないが、押し上げ要因になるかは不透明。

中板

- ① 年明け後の加工及び販売の低調は、2月に入り更に深刻化を増しており、過去10年で最低規模に迫って、同時に収益も当然ながら最低数値ではないかと思われる。追い打ちを掛けるようなコロナウイルス禍も先が見えず、今後の鉄鋼需要減退や与信不安等への悪影響は必至と見られる。日本製鉄の大規模設備合理化等の発表もあり、これまで高炉の政策転換の発表のたびに予見されてきた鉄鋼流通の大変革が今回は本当に求められ、迫られるのではないかと感じている。

厚板

- ① 切板、素材共に引き続き需要は弱い。販売重量は前月比にて5%弱増加したが、前年同月比では2割強の減少にて不況そのものである。新型コロナウイルスの影響は直接的には表れていないが、今後ユーザーの販売不振→生産調整→受注減という経路にて切板販売重量に大きな下押し圧力がかかることが懸念される。母材も需要が低調なことに加えて相場の下押し圧力も顕在化しつつあり、明るい材料はない。建機は中国拠点の製造機能の一部を日本にシフトする動きがある一方で、需要そのものについては中国市場の動向を含めて不安材料が多く楽観できない。産業機械は在庫調整を続けているものの、受注に顕著な回復は見られないことから、数なくとも来下期までは増産はあり得ないものと思われる。土木案件は足下こそ横這いにて推移しているが、来期は減少が見込まれている。
- ② コロナウイルスの(武漢肺炎)の影響が日に日に大きくなっている。

— 舟安开形鋼

- ① 1月比2月は営業日数2日増なるも、総じて指標は悪化。1月より売上高以下の指標は更にざっと1割強悪化したのではないかと見通しも暗く2月が底とは言いきれない。現在、コロナ騒動もあり混迷の最中。その割には市況は意外と堅持の印象。

II 开形鋼

- ① 2月の倉出しは大幅に減少した。前年同月比も減少。前月同様に土木向けの出荷はあるが、建築は低調。市況もジリ安で、新型コロナウイルスの影響で不透明感があるが、焦らずこの難局を耐えていきたい。
- ② 2月は稼働日数の減少もあり、扱いトン数は今期最低の数字。もともと2月は一年の内一番動かない月と割り切ってはいるが、先安感が台頭し、市況はジリ安傾向が続いている状況。

異形棒鋼

- ① 在庫販売も不振で、店売り分野の末端需要まで荷動きは低調である。市況は弱含みの認識であるが、荷動きが悪いため実感はない。
- ② 置場仲間売りの動きは、2月は1月より10%悪く、3月はそこから10%弱悪い。単価は同じ。非常に細かい。コロナの影響か、不調の日もあるがまだ目立ってはいない。

平鋼

- ① 荷動きは低位安定のまま変わらず。スクラップ価格が下がったため様子見しているところもあるのではないかと。新型肺炎の影響はまだ無いが、今後、更に荷動きが落ちないか心配している。価格は一部で調整が入っているが、全体的には維持されていると思われる。
- ② 荷動きは非常に悪く、大変厳しい。先々良い話もなく、コロナ問題まで発生し、心身ともに苦しい状況。

車巻開形鋼

- ① 店売りがかなり悪いレベルまで落ちてしまっている。建築の中小物件が少し出てくるのを期待しているが、コロナの影響がどうなるのかが分からないのが不安だ。
- ② ライン修理のため生産できず。客先に人員を派遣し加工対応中。
- ③ 2月終盤から受注が失速。3月も出足が悪く、先行き不安。

鋼管

- ① 低調横這い。引合い弱く、先行き不透明感が継続。
- ② メーカーからの入荷は1年半ぶりに順調となり、歯抜けもほぼ解消したが全く売れない。
- ③ 日割りの出荷量は前年比でやや回復したものの、前年比-20%と、全品種低調なままで先行き不透明感は増すばかりである。

構造用鋼

- ① 需要環境は弱含み横這いで推移していたが、新型コロナウイルスなどの外部要因により、さらに不透明感が強まっている。自動車、建機、産機、工作機械は総じて低調な状態が続いている。市中の在庫水準は引き続き多め。価格は弱含み横這い基調。
- ② 2月後半くらいから新型コロナウイルスの影響で売上が減少。

磨棒鋼

- ① 2月は大きな変動もなく、低位で推移。昨年末から比べると若干であるが底を打った様子は感じられる。新型コロナウイルスの影響により自動車、建機関連の生産調整が徐々に始まってくるものと思われる。今後の動きが全く予測できないため、現在は静かに動向を見守るしかない。

その他

<鉄スクラップ>

- ① スクラップの発生も悪く、荷動きが全くない。世界的に混乱している今、スクラップ相場だけが反発する事は考えられず、今はマイナス、不安要因しかない。ネガティブな言葉ばかり並んでしまったが、こんな時こそ冷静に地に足をしっかり付けて、事故や怪我の無いよう商売していこうと思う。

<金属表面処理加工>

- ① 2月は紐付き、物件物とも計画通り。スポットは中旬以降、扱い量、引合いともに低調となる。大口物件が継続しており、紐付き材を含め3月は安定操業で推移する予定。